

研修報告書

松阪市議会議長 濱口高志 様

下記の内容で研修いたしましたので、報告いたします。

日時:	令和 8 年5月29～30日(金・土曜日)																				
開催地:	国立京都国際会館																				
テーマ:	プライマリーケア学会																				
内容:	<p>プライマリーケアに関する様々な視点を一カ所(国際会館)に集まり発表することで、情報の共有と人的な交流を促す機会。</p> <p>●中学校等の部活動におけるプライマリーケア (現況) 令和 3 年度時点で部活動中に発生した負傷件数は 96,635 件(全体の 56%) 授業の体育では、72,606 件(全体の 33%) スポーツ傷害を抱えている生徒が非常に多い。 少年団のようなクラブ活動においても、怪我で活動を離脱する子どもは多い</p> <p>(取組み①) 怪我の予防活動を月 1 回、理学療法士や作業療法士の方々を行っている。 準備体操の重要さや怪我をした子どもたちに対する初期対応の指導など、子どもと親御さんに参加してもらい知識と技術の向上に取り組んでいる。</p> <p>(取組み②) クラブやチームに関わる顧問の先生やコーチの方々などに、トレーナーとして必要な知識・技術を培う講習を行っている。</p> <p>●遠隔医療の様々な活用形態</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">診療形態</th> <th colspan="2">ケース</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>D to D</td> <td>特定領域の専門的な医師同士の連携</td> <td></td> <td>診療支援、指導</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">D to P</td> <td rowspan="3">遠隔診療</td> <td>D to P</td> <td>外来診療、通院精神療法</td> </tr> <tr> <td>D to P with D</td> <td>連携による専門診療</td> </tr> <tr> <td>D to P with N</td> <td>僻地において現場に N がいる診療</td> </tr> <tr> <td></td> <td>遠隔モニタリング</td> <td>モニタリング</td> <td>心臓ペースメーカーなど</td> </tr> </tbody> </table>	診療形態		ケース		D to D	特定領域の専門的な医師同士の連携		診療支援、指導	D to P	遠隔診療	D to P	外来診療、通院精神療法	D to P with D	連携による専門診療	D to P with N	僻地において現場に N がいる診療		遠隔モニタリング	モニタリング	心臓ペースメーカーなど
診療形態		ケース																			
D to D	特定領域の専門的な医師同士の連携		診療支援、指導																		
D to P	遠隔診療	D to P	外来診療、通院精神療法																		
		D to P with D	連携による専門診療																		
		D to P with N	僻地において現場に N がいる診療																		
	遠隔モニタリング	モニタリング	心臓ペースメーカーなど																		
所感:	学会というものに参加するのは初めてのことであったが、プライマリーケアに関しては医療という専門性を地域でどうつなげて、医療サービスが必要な人に早い段階でどう関わられるかという視点が重要であることから、医療従事者側の課題と地域側の課題をいかにマッチング																				

させ解決することができるかということが、今回の学会のいくつかの発表を聞いて再認識できた。特に、地域側の課題については、行政側で取り組むことができるものもあり、プライマリケアを学ぶ視点は議員という立場にある人みんなにとって、重要なテーマだと思えた。

学会のなかで一医師が言っていたように、医師やクリニックという単位で見ると、行政とはあまり関わっていない人の方が多いという発言があったことから、まずは行政との橋渡し役にだれかがなることの必要性があることを感じられた。また、医師が見えていない視点を行政側で情報提供や人をつなぐことで乗り越えられそうな課題もいくつかあった。医師を中心とした医療従事者側の発表の場であったが、自治体側の人も参加することでその場で化学反応が起こすことができそうな気がする機会となった。

風景：



以上

至誠会 深田龍